

## 明治150年の長崎港の歩み

### ～ 明治維新时期から現在までの主要輸出入品目の比較 ～

#### はじめに

長崎港は、元亀2年(1571年)にポルトガル船が入港して以来、約450年もの永きにわたって外国との貿易港として栄えてきた港です。鎖国時代には、わが国唯一の外国との窓口として最も重要な港となり、海外からの物資や文化は、すべて長崎を通じてわが国にもたらされました。明治以降は、上海航路をはじめとして外国航路の連絡船が寄港する歴史ある貿易港として発展しました。

本特集では、平成30年(2018年)は、明治元年(1868年)から起算して満150年の年にあたることから、「明治150年」を契機として、貿易統計から見た長崎港における明治維新时期から現在に至るまでの主要輸出入品目の変遷を捉えてみました。なお、元号が慶応から明治に変わる前年の江戸幕府末期(慶応3年(1867年))の長崎港における貿易は、輸出は石炭や茶、人参、蠟、昆布などの原料品や一次産品が、輸入は艦船や火器などの軍需品、綿織物、毛織物などの衣料完成品や米、砂糖などの食料品が中心となっています。

#### 1. 明治維新时期の輸出入品目

【明治6年の貿易】※明治維新时期は輸出入品目がともに把握可能な明治6年を掲載。

〔輸出〕貿易額は2,049千円、主要品目は石炭、茶、<sup>するめ</sup>鰯、<sup>もくろう</sup>木蠟<sup>1</sup>、煙草

〔輸入〕貿易額は1,974千円、主要品目は毛織物、<sup>めんぷ</sup>綿布<sup>2</sup>、砂糖、<sup>くりわた</sup>繰綿<sup>3</sup>、<sup>もめんいと</sup>木綿糸

開港によってわが国の経済は徐々に発展していったものの、自由貿易の下で欧米先進諸国との競争に耐えられるだけのレベルには達していなかったため、明治新政府自らが事業を興してこれを経営し、民間に範を示し、事業の払い下げを行うという、いわゆる殖産興業政策により産業の近代化を推し進めました。

この時期の全国の貿易は、輸出は生糸及び茶が主な輸出品目となっており、これら2品目で輸出総額の約6割を占め、輸入は綿製品(綿織物、綿織糸)及び毛織物が主な輸入品目となっており、これら2品目で輸入総額の約6割を占めています。

一方、長崎港の貿易は、幕末の慶応3年(1867年)には、全国の輸出入総額の24.6%を占めていましたが、安政の五か国条約(安政5年(1858年))により、箱館(函館)、神奈川(横浜)、兵庫(神戸)、新潟の港においても貿易が行われるようになったことから、明治6年(1873年)には8.1%(輸出9.5%、輸入7.0%)に激減しています。

明治維新後、長崎港は全国における石炭の集散積出港であったことから、石炭の積出しは全国の9割を占め、明治6年の長崎港における輸出品目は、石炭が第1位(構成比30.1%)、次いで茶(同17.2%)と続き、上位2品目で輸出総額の約5割を占め、このほか、<sup>するめ</sup>鰯、<sup>もくろう</sup>木蠟、煙草、<sup>いりい</sup>椎茸<sup>4</sup>、<sup>かいふ</sup>海參<sup>4</sup>など農産物や海産物となっています。また、輸入品目は毛織物が第1位(構成比21.5%)、次いで<sup>めんぷ</sup>綿布(同19.3%)となっており、上位2品目で輸入総額の約4割を占め、このほか、<sup>くりわた</sup>繰綿、<sup>もめんいと</sup>木綿糸、砂糖や酒類の食料品となっています。〔付表〕

(注)明治維新期は、輸出入品目がともに把握可能な明治6年を掲載している。

1. 木蠟 (もくろう) … ハゼノキの果実から採取される油脂。ろうそくなどの材料。
2. 綿布 (めんぷ) … 綿糸で織った布。綿織物。
3. 繰綿 (くりわた) … 綿花から種子を除いた繊維部分。
4. 海參 (いりこ) … ナマコの腸を除いてゆでて干したもの。小魚をいって乾燥した「いりこ」とは異なる。

## 2. 明治中・後期～大正～昭和期の輸出入品目

### 【明治中・後期】

明治期の輸出品目は、石炭、<sup>するめ</sup>鰯、米が上位を占めていますが、後期にはじゃがいも、缶・瓶詰食品も有力な輸出品として登場してきました。

輸入品目は、30年代前半までは繰綿、砂糖が上位を占めていましたが、後期には石油類、肥料、鉄鋼・同製品、機械・同部分品が上位を占めてきました。

### 【大正期】

大正期の輸出品目は、船舶、綿・絹織糸、石炭、<sup>するめ</sup>鰯が上位を占め、輸入品目は、繰綿、金属・同製品、肥料、石油類、米が上位を占めていました。

### 【昭和前期（元年～20年）】

昭和前期（戦前）の輸出品目は、石炭、機械類、魚介類・同調製品が上位を占めていましたが、戦争が激しくなる中、石炭の輸出が減少していきました。輸入品目は、前半までは繰綿が、後半は石油類、採油用種子が上位に登場し、次いで機械類、金属・同製品、豆等の糟、が登場するなど、戦争の影響による輸入品目の変化が見られました。

### 【昭和中期（21年～35年）】

終戦直後の輸出は極めて低調で、従来の輸出品目には無かった麻袋、ビール空瓶が首位に登場しましたが、その後、船舶類が首位を独占し、次いで、魚介類やみかん缶詰等の食品が上位を占めてきました。

輸入品目は、小麦、麦粉等の主食料を中心とした生活必需品や鉱油が急増しましたが、その後、石油、精米、機械類が上位を占めてきました。

### 【昭和後期（36年以降）】

戦後の高度経済成長期でもある昭和後期は、長崎の基幹企業である三菱造船所による船舶の建造が活況を呈し、輸出品目も船舶類、原動機、工業機械が上位を占め、輸入品目は水産県長崎の漁業を支える漁船用の重油、次いで電気機器、その他の機械類が上位を占めてきました。〔付表〕

## 3. 現在(平成期)の輸出入品目

### 【平成29年の貿易】

〔輸出〕貿易額は1,639億円

主要品目は船舶類、原動機、ポンプ及び遠心分離機、重電機器、構造物及び同建設材

〔輸入〕貿易額は645億円

主要品目は石炭、鉄鋼製構造物及び同建設材、原動機、石油製品、有機化合物

わが国の最近の貿易動向については、輸出は、平成27年(2015年)は、円安を背景に増額基調となったものの中国の景気減速などを背景に徐々に伸び悩みましたが、3年連続で増加し、続く、平成28年(2016年)は、韓国などアジアや米国向けの鉄鋼、輸送用機器等が落ち込んだことにより、4年ぶりに減少しています。また、平成29年(2017年)は、世界的な景気回復を背景に、アジア向けの電子関連製品や米国向けの自動車などが伸びたことから、2年

ぶりの増加となっています。一方、輸入は、平成 27 年は、鉱物性燃料が原油価格の下落に伴い減少に転じたこともあり、6 年ぶりに減少し、続く、平成 28 年は、火力発電に使われる原油や LNG の価格下落の影響により 2 年連続で減少しています。また、平成 29 年は、原油価格の上昇と円安の影響で資源国の中東や豪州からの輸入額が膨らんだことから、3 年ぶりの増加となっています。

平成 29 年の全国の輸出入総額は 154 兆円(輸出額 78 兆円、輸入額 75 兆円)となっており、長崎港における輸出入総額の全国輸出入総額に占める割合は、0.1%(輸出 0.2%、輸入 0.1%)となっています。また、輸出入品目については、輸出は、船舶類が第 1 位(構成比 72.3%)、次いで原動機(同 16.8%)となっており、上位 2 品目で輸出総額の約 9 割を占め、このほか、ポンプ及び遠心分離機、重電機器などとなっています。輸入は、石炭が第 1 位(構成比 41.0%)、次いで鉄鋼製構造物及び同建設材(同 15.0%)となっており、上位 2 品目で輸入総額の約 6 割を占め、このほか、原動機、石油製品などとなっています。[付表]

## おわりに

貿易は、国内外の経済動向や産業の構造変化、社会背景の影響を受けて、その規模や取り扱われる品目などが変化していきます。

長崎港における貿易は、明治維新时期では、輸出は石炭や茶、<sup>すずめ</sup> 鯧、<sup>もくろろう</sup> 木蠟、煙草などの原料品や一次産品が、輸入は毛織物、綿布をはじめとした衣料完成品や食料品が中心となっています。その後、明治期、大正期、昭和期の産業・貿易構造の変遷を経て、現在の平成期では、造船・プラント関連やエネルギー関連を中心に、輸出は船舶類や原動機、重電機器など重厚長大型の工業製品が主力となり、輸入は石炭や石油製品などの鉱物性燃料が中心となっています。

長崎港の輸出入品目は、150 年の時を経て大きく変化しており、今後も長崎港の貿易とともに輸出入品目がどのような変化していくのか、注視していきたいものです。

### [参考資料]

- 「図説 長崎県の歴史 外山幹夫 編」
- 「維新経済史 土屋喬雄 著」
- 「横浜市史(第 2 巻) 及川盛雄 発行」
- 「日本貿易の現状 一般社団法人日本貿易会 編」
- 「平成 12 年度年次経済報告(平成 12 年 7 月) 経済企画庁 編」
- 「日本関税・税関史 資料Ⅲ(統計) 大蔵省税関部 編」
- 「税関百年史(上巻) 大蔵省関税局 編」
- 「横浜開港 150 年の歴史 横浜税関 発行」
- 「貿易統計からみた長崎港 138 年の歩み 長崎税関 発行」

(注) 長崎港には松島港を含む。

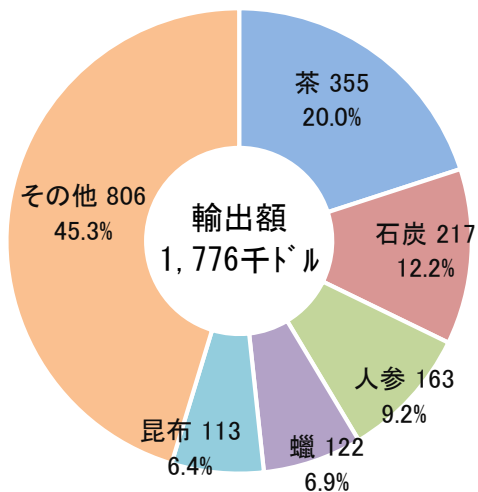
◎本資料を転載する場合は、長崎税関の資料による旨を注記してください。

◎本資料についてのお問い合わせ先及び本資料を掲載するホームページ

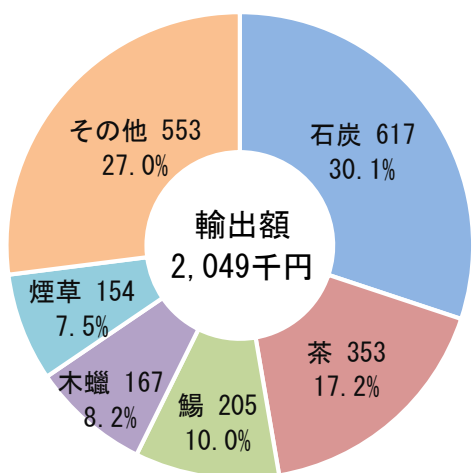
長崎税関調査部調査統計課 TEL: 095-828-8659 長崎税関ホームページ <http://www.customs.go.jp/nagasaki/>

〔付表〕 長崎港における輸出入品目の明治維新时期から現在までの比較

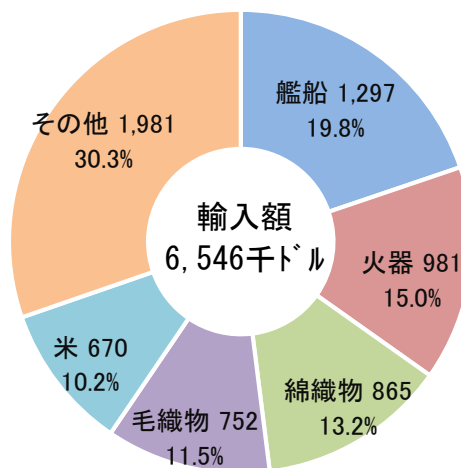
【輸出（慶応3年(1867年)）】



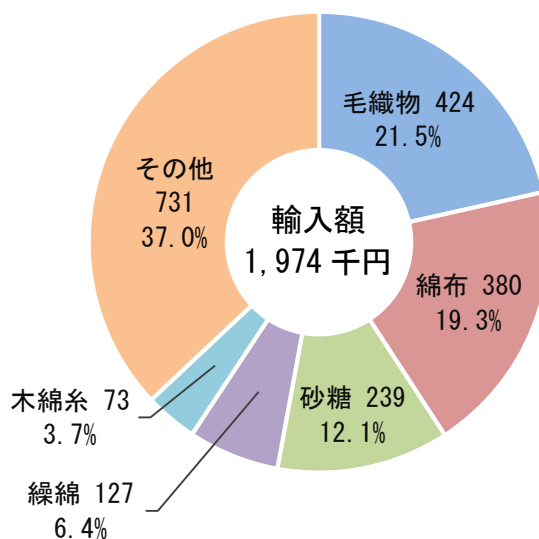
【輸出（明治6年(1873年)）】



【輸入（慶応3年(1867年)）】

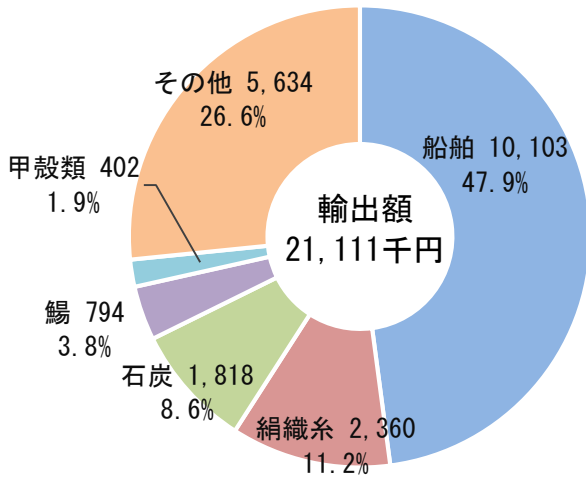


【輸入（明治6年(1873年)）】

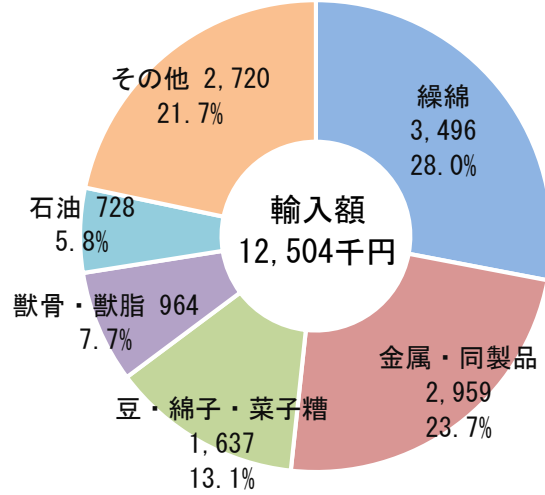




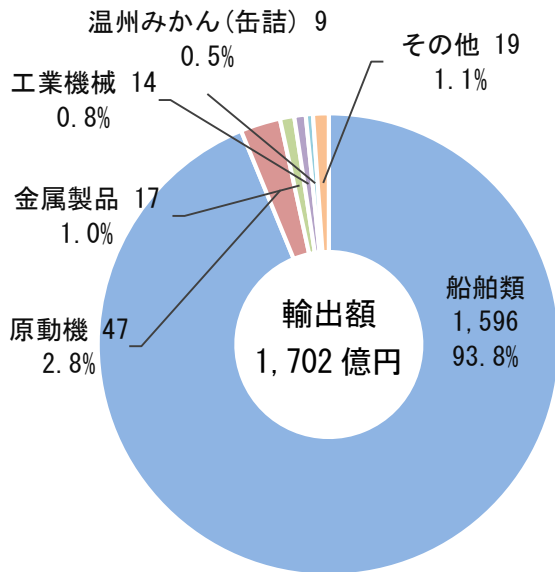
【輸出（大正6年(1917年)）】



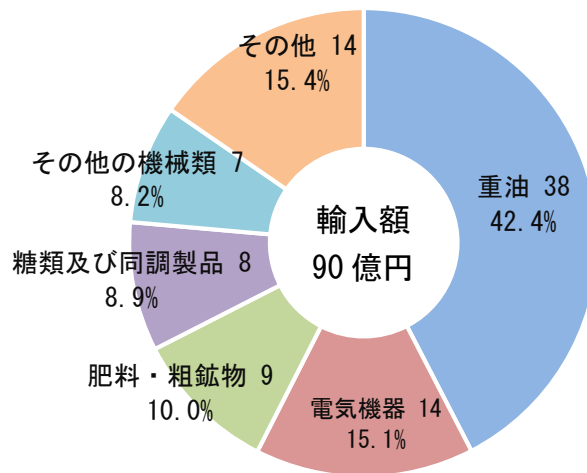
【輸入（大正6年(1917年)）】



【輸出（昭和50年(1975年)）】

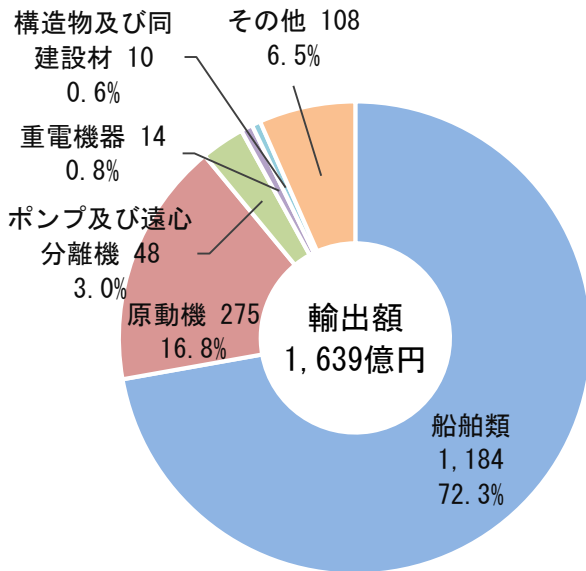


【輸入（昭和50年(1975年)）】





【輸出（平成29年(2017年)）】



【輸入（平成29年(2017年)）】

